

[Ⅱ-D] 出題意図と解答例

全体の出題意図

「流行」に関する3つの文章を読ませます。1つは、流行という現象を理論的に説明したもので、あえて難しい文章を選んであります。それを読解し、どれだけ具体的な事例にあてはめられるかを見ます。具体的な事例はあとの2つの文章にあげられています。ただし、完全にきれいにあてはまらない部分もあり、書かれていることを相互に比較する能力が問われます。さらに、自分の身近な例で問題を考察してもらい、論理性や理論構築力を見ます。

問1

(1) 解答例

流行の動因が、ある集団に属したいという各個人の同一化への欲求と、それより劣った集団の人間から区別されたいという差異化への欲求から成っているということ。カレッジスカーフやバッジ付きブレザーを着て上流階級の英語をしゃべることで、自分を「大学の人間」と同一化すると同時に、大学の外の階級の人間から差異化するといった行動。

(2) 解答例

そもそも何がはやるのか、そしてそのどのような特徴が流行において評価されるのかといったことが、便利だからという理由や、美しいからという理由だけではしばしば説明できないということ。なぜ金魚やカナリヤではなく兎が流行ったかということや、なぜ柿色の毛の兎が高値を呼んだかということは、審美性や利便性だけでは説明できない。

(＊ブームが去るや否やいっせいに兎が捨てられたといった状況に言及し、間接的に説明する解答も、評価の対象とする。)

問2

解答例(要旨)

- ・流行に乗った人々のあいだに、経済的利益の追求という目的が見られること。あるいはそのような目的の人々がいたこと。経済学的なメカニズムはCの文章では触れられていない。
- ・流行生成に関するメカニズム。とりわけ流行を作った人々がいて、背景に詐欺的な意図があること。詐欺や誘導といった意図はCの文章では問題にされていない。
- ・熱狂から突然の終焉に至る過程など、終結に関するメカニズムがCの文章では説明されていない。
- ・ジンメルが言う「階級」がBの現象のなかに明白に見いだせないこと。そこに見られるのは、せいぜい、現存するものではなくかつて存在した(旧幕時代の)階級にすぎない

こと。

(*その他、説得的な項目があげられていれば、評価の対象となる。)

問3

解答例

妬みの対象そのものの価値をすでに理解しているのでなければ、妬むことなどありえない。これが近さである。理解した価値が大きいほど、その対象を手に入れたくなる。それによって近さの程度が決まる。他方で、現に所有していないものに対してしか、妬むことはありえない。これが遠さである。対象がどれぐらい手に入れにくいかにによって、遠さの程度が決まる。

問4

評価のポイント

- ・事例は適切か。その解説は簡潔で分かりやすいか。
- ・解答者自身のあげた仮説は事例とうまく噛み合っているか。
- ・解答者自身のあげた仮説は説得的か。根拠を適切に示しているか。
- ・解答者自身のあげた仮説は独創的か。
- ・Cの文章やその他問題文の理解に誤りはないか。
- ・全体として、論理的な破綻はないか。首尾一貫しているか。